

**【教育実践論文(ソニー子ども科学教育プログラム) 審査講評】**  
**2024年度 最優秀校**  
**国立大学法人福井大学教育学部附属義務教育学校**

「科学が好きな子ども」を育むための教育プランとして①五感で感じ、自然を愛する子どもを育む授業、②長期的な学びのプロセスを子どもたちと歩む、③協創するコミュニティをつくるといった3つの視点から、授業やカリキュラムが設計されています。その前提として、義務教育段階の9年間（幼児期を含めると12年間）を見通して科学する心を育み、自分の世界を広げ、さまざまな世界の見方を学び、広がっていく世界の解像度を上げていくために子どもと教師が協働していくコミュニティを大切にされています。

実践においては、ツバメ調査隊や、みそ汁プロジェクト、新解体新書発行プロジェクトなど地域性や子どもたちの興味や発達段階がよく考慮されたプログラム開発には独自性があり、とても素晴らしい取り組みであると高く評価いたします。現代の子どもたちは自然に触れる機会が減ってきている中で、科学を探究することの面白さ、奥深さを理解するためには、このような経験をいかに積み重ねるのが重要になってくるものと思います。

論文全体を通して、明確な教育方針のもとで教師が子どもに寄り添う姿が見受けられ、また子どもと教員がともに学び探究していく姿がルポルタージュ的にまとめてあり、とても読みやすいものでした。

来年度の「子ども科学教育研究全国大会」に向けて、隣接する幼稚園との交流も含めた12年間を見通した構想、実践が、貴校の特色としてより深まり、県内外に発信されることを期待いたします。